

これが日立APの成果主義か？

日立AP清水事業所
と関連会社で働く
人のネットワーク



2010年7月

No. 31

発行：オアシス

編集委員会

連絡先：多田義幸

TEL

090-9121-0602

苦情処理を申し入れ

設計部の黄（コウ）さんは、今年の5月、労働組合に苦情処理の申し入れを行いました。

その内容は2年前（08年6月）の処遇評価に対する突然の評価ダウンと、黄さんが中心になって担当してきたMSモータ開発の受賞から外されたことについてです。

評価引き下げの理由は？

黄さんは03年に中途採用で入社しました。工学博士の学位を持ちモータ開発の仕事を担当しています。04年～08年の間に、圧縮機部に配属され、MSモータの開発を担当していました。

問題が起きたのは、部長がY部長に代わった08年6月の評価の時です。

担当開発してきたMSモータ製品化を実現し、本人は「H」評価で申請し、直属の上司であったT主任技師（当時）も、開発成果を認め、黄さんに「H」評価をして、Y部長に提出しました。

しかしY部長から戻されてきた評価は、圧設部で最低の「B」に引き下げられていました。

驚いた黄さんは、理由がわからないため、Y部長に聞きに行きました。Y部長は、答えが二転三転し、納得のいく理由は得られませんでした。

受賞から外れる

黄さんはMSモータの開発の中で、07年に研究報告を作成・発表し、特許4件を出願しています。また08年には「MSモータ搭載スクロール圧縮機の開発」で、社長技術賞で表彰されています。

しかし09年にMSモータ開発成功の成果より導いた「MSモータ搭載スクロール圧縮機」が「日本冷凍空調学会賞 技術賞」を受賞した時は、日立AP（清）のモータ関係の受賞者はS部長で、黄さんの名前はありませんでした。

また同時期、圧縮機用MSモータの開発が「電気工業技術功績者表彰 優秀賞」を受賞しましたが、（清）で受賞したのは、量産直前の10ヶ月途中で入ってきた直属の上司であるT主任技師（当時）だけでした。

4年余りMSモータの開発を中心に行ってきた黄さんは、社外の受賞から一切外されました。

評価の見直しを要求

黄さんは、「MSモータの製品化が実現したのに、圧設部で最低の「B」評価を押しつけられたことに納得できない」、また「社外の受賞が管理者だけで、開発担当者が外されているのは不当だ」として、見直しを要求しています。

日立APの会社と労働組合が、この訴えに対して、どのような回答をするかが注目されます。